

あたらしい

ふれあい

1月号

[通算505号] 2018年1月20日発行 50円



発行所

公益社団法人 家庭養護促進協会

大阪事務所

発行者 芝野 松次郎

☎543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10

大阪市立社会福祉センター210号室

TEL 06-6762-5239

FAX 06-6762-8597

E-mail fureai-osaka@nifty.com

HP <http://ainote-osaka.com>

振替口座 00930-1-35191

巻頭言

今年も協会の新年は、今宮戎神社の十日戎での飴売りで始まりました。昨年末には面接室を占領するほどの商品が届き、職員は年末年始の休みは体調を整えることを心がけ、万全の体制で準備をしました。しかし、残念ながら完売とはならず、在庫は事務所におさまりきらずに車の中で山盛りに…。詳しくは、6ページをお読みください。

昨年お父さんお母さんと出会い、今年初めてお家で一緒にお正月を迎えた子どもは20人。そのうちの一人、5歳のA君は初めてのお重のお節料理に驚き、親戚からお年玉をもらいキョトンとしていたそうです。さっそくおもちゃを買うのに使い切ったそうですが、お父さんお母さんにとつても子どもとの初めてのお正月を楽しく過ごした報告をいただき、私も嬉しくなりました。

今年も、一人でも多くの子どもが里親と出会い、新たな親子が誕生するよう頑張ります。

(和田)

お父さんになる

先月、3歳の男の子を迎えたA夫妻。子育てが始まるにあたって、「夫には子どもをもつという自覚をもって変わってもらいたい」と調査の段階から語っておられた里母さん。「子どもをもつ」のだから「しっかりとしてもらって」と里父の変化に期待したい気持ちを持っておられた。施設での実習を経て自宅に帰ってから、子育てに対して里父の積極性を求めたいのだが、マイペーを崩さない里父の態度にイライラしておられた。子どもの動きに合わせて動いていると、疲れがたまつて爆発してしまい、夫婦喧嘩をして泣いたりしておられる。里父が早速「規則正しい生活をさせよう」とか言うのを、里母は苦々しく感じておられるようである。早朝からクリスマスツリーを出して飾っておられたりして、里父も里父なりに気づいたことをやっておられるのだろうが、里母が求めるものとはずれてしまう。そういうことは、子どもを迎

えた当初に、非常によくおきる問題である。

子どもを迎えると、生活は180度変わる。家の中は散らかり、夜間に何度も起きることになり、食事は子どもが好むメニューに変わり、何かと世話のかかる子どもに振り回されることになる。加えて、子どもについての意見の食い違いが出てくる。「微熱がある時に風呂にいれるかどうか」「毎食後に歯みがきするかどうか」とか「ひとつめのおやつが終わっていないのに次を出すかどうか」など、およそ正解があるようなことではないような、どちらでもいいようなことである。それぞれの主張は、それぞれ正しい立ちや常識からくるものなので、主張がずれて当然である。また、大抵はお母さんが不満を抱えてしまうので、夫婦喧嘩も増える。子どもへの声のかけかた、お母さんへのいたわり、協力具合、積極性など、お父さんに物足らなく感じておられることがどうしても多い。

施設での養育実習の時点では、お母

さん中心にやってもらっているの、少なくとも1カ月程度、施設の先生からいろいろ教えてもらいながら子どもを中心、先の生活を想定し、子どもとの関係づくりをしているお母さんと、毎週末に施設に通つてくるお父さんでは意識の高さが違う。子どもと会えるのをそれはそれは楽しみに来られているお父さんもあるの、申し訳ないが、子どもと接する場面の多いお母さんの方が、子どものことは理解しやすいし、現実的な発想ができています。子どもの方も、いつも傍にいますお母さんから関係づくりを始めるので、家庭生活が始まっても、お父さんに拒否的になる場合もあれば、いい顔ばかり見せようとする場合もある。お父さんは、お母さんほど、関わった自信もまだ持てないままに、果敢に子どもとの関係づくりをしていく時間が始まったということになる。なかなかうまくいかず空回りすることも多いだろう。

実習中から子どもとの関係を深めている「妻」は、先に「妻」から「妻で

もあり母でもある存在」に変身をし始めていて、「夫」がまだ「夫」から「夫」でもあり父でもある存在」になかなか変身しない時期は、つらいものである。おそらく、妊娠して子どもを授かって、妻は妊婦の期間から徐々に母になり、それに追いついていない夫というのはあるのだろうと思う。子どもが生まれて数カ月経たないと、夫はおよそ父らしくなつてこないのだろうし、母になるにも父になるにも時間は必要である。養親になる場合にも、数カ月はかかっているように思われる。

よく例に出すのは、「子どもを迎える前は、帰宅した夫が咳をすると、『あら、どうしたの？大丈夫？』といったわつていたのに、子どもを迎えた途端、同じように帰宅した夫が咳をしていると、子どもにうつされたくないので、キッと睨んで『マスク！』と言っちゃったんです」というお母さんの話である。お父さんには気の毒であるが、お母さんは早くも「母」になつておられたと思う。

もともとの脳の構造にも性差がある。女性の脳は男性の脳に比べて右脳と左脳をつなぐ脳梁が太いため、感じる領域である右脳と、言葉や記号を操る左脳を連携させて、感じたことを言葉にして伝えることが得意であり、話をしながら家事ができたり、表情の違いに敏感に気付いたりできると言われている。一方、男性の脳は脳梁が細いため、右脳と左脳のそれぞれを特化させなければいけないような数学的、論理的思考が得意で、話を聞くのも、するのも苦手な場合が多いらしい。お父さんがお母さんと同じように気づき、声かけできるようなことは難しいらしい。

「実は子どもを迎えて1カ月目に離婚話が出てたんです」と半年後に教えてくれたお母さんがおられたが、子どもの試し行動や赤ちゃん返りに付き合つてへとへとになり、加えてお父さんのいたわりの言葉や、お母さんが望むことをお父さんがなかなかやってくれなかつたりして、辛く、追い詰められた気持ちになつておられたようである。

身近で、一番重要な理解者であるお父さんが「わかつてくれない」となると、お母さんとしては八方ふさがりだっただろうと思う。夫婦関係がぐらぐらしたケースはいくつも思い出される。

どのお母さんからも「もつと手伝つてほしいのに、子どもと一緒にチンと座つて夕ご飯ができあがるのを待っている」、「子どもの夜泣きで何度も起きるのが辛いになかなか代わつてくれない」、「自分の用事を優先してしまふ」などお父さんのことを、たくさん聞く。お父さんからすればいろいろ言い分もあるだろうとは思うのだが、精一杯で余裕のないお母さんからは、そういう言い分になるのである。

お父さんが自覚をもつたお父さんになるには時間がかかる。A夫妻も、子どもも含めた3人家族を作り始めた第一歩のところである。互いの期待と不満とがぶつかりあいつつ、日々奮闘しておられる。里母さんには、「焦らず、諦めず。子育てと同時に、お父さん育てですよ」と耳打ちしている。(中島)

お小遣いどうする？

この一年開催している勉強会で、子どものお小遣いをどのように、いくら渡しているか？という話題になった。メンバーは小学6年から高校2年までの養子のいる家庭で、お小遣いをすぐに使ってしまう子が多いこともあって、お小遣いやお金は関心の高い問題であった。毎月いくらと決めて渡している家庭が多かったが、ある家庭ではだいたいの基本額は決めておいて、その月に手伝いややらないといけないことをやったかどうかによって加算、減算するという報酬のような形で渡しているということであった。お小遣いは子育てにおいて悩ましい問題の一つである。ベネッセ教育情報サイトに登録している小学生から高校生までの保護者2067名を対象に2014年に実施した調査があった。それによると、お小遣いを定期的に渡している家庭は、小学1年生で10.5%、小学3年生で20.3%、小学6年生で46.2%、中学1年生で56.9%、

高校1年73.9%であった。その9割以上が1カ月に1回お小遣いを渡しており、金額として一番多い金額帯は、小学生で7割以上が2000～10000円、中学生で6割以上が1000～3000円、高校生の4割前後で5000～9000円であった。お小遣いの金額は親の約7割、子どもの約5割が「妥当」と考えていたが、親の約2割、子どもの約4割は「少ない」と回答していた。

お小遣いの使い方は、子どもによって違い、お小遣いを大事に使う子、もしくはよっぽどでない限りお金は使わない子、すぐにパーツと使ってしまう子、様々だろう。親がお小遣いの管理をどうしているかは、子どもの年齢にもよるだろうが、何に使ったかを確認したり、お小遣い帳をつけさせたりしている家庭もある。また、渡したお金は子どものものであるからと、使い道は子どもに任せ、いつさい口出しはしないという家庭もある。お小遣いの渡し方、使い方をどのようにすれば子どもにとって良いかは正解がない分、親の方も

「こうしよう」という考えを持つていなければ、ぶれてしまうこともあるだろう。父母の価値観の違いもあるので、父母が相対的に話し合っただけで考えておく必要があるだろうと思う。

多くの家庭では親がお小遣いの金額を決めており、それは当然のこととも思う。ただ、そのうち、一部の子どもはお小遣いの金額が妥当ではないと思っっており、その背景に何かあるのかは、この調査では分からなかった。お小遣いの決め方が子どもの理解できる形だったのかどうか、その他に何かあるのか。子どもが不満に思う気持ちを知りたいなと思う。少なくとも子どもが「親が言うから仕方ない」と思えるくらいの納得は必要なのだろうと思う。

多くの親が勤め人で、親が働いている姿を子どもが目にすることはなかなか難しい。そのような状況で、「お父さん、お母さんが働いているからご飯が食べられているのよ」ということを説明されている話もよく聞くが、子どもはどれぐらいイメージが持てるものな

のだろうかと、商売人の親を持った私にはよく分からないところではある。親が働いている実像がない分、子どもにお金の大事さや経済観念を分からせるためには、お金はどのようなにして手にするのができるのかからはじまり、ある程度の年齢になれば親の仕事観、また家の経済状況まで説明するのも一つかもしれない。ただ、そういう家族にとつて大事なことを、普段から語り合える関係性が持てているのかどうかは問われることになるのではないかと

思う。

私たちが、子どもがお金のことでも問題を起こしたという相談を受ける際、それまでの親子関係に起因しているのではないかなと思うことがある。お金にまつわる話を深く聞いていくと、お金が欲しい、必要ということが根本的な問題ではなく、日常的に子どもの思いを聞いたり、尊重したりというやりとりがない、あるいは十分ではないことも影響しているなど感じることも実は結構多いと思えるのだ。

養親ゼミナール

「成長した子どもからのメッセージ」

日時：3月17日(土) 10:00~12:00

場所：社会福祉センター(協会のある建物)

3階 第1会議室

今年度最後の「養親ゼミナール」です。現在、車の整備士として働いている25歳の男性の予定ですが、仕事の都合により、変更の可能性もあります。協会職員がインタビューしながら、養子として育ててきた思いを語ってもらいます。既に子どもを養育されている養子縁組里親さん、養親さんは無料です。養親希望の方、施設関係、行政関係の方は、受講料1,000円をいただいています。参加希望の方は協会まで。(保育あり・定員10名・要事前申込み)

勉強会で話し合っている時に、子どもには「お小遣いをもらおう」という権利もあるのでは、報酬制をとったとしても一定額のお小遣いは保障してやる必要があるのではないかと山上が意見をしていた。それもまた一つの考えだろう。親の意見を伝えるだけでなく、子ども側の意見もぜひ聞いてもらいたい。いくら必要か、それはなぜか。それが通用するかどうかは別として何らかの考えがあるかもしれない。それが親と

2月のJBクラブ

日時：2月28日(水) 10:30~15:00

場所：社会福祉センター(協会のある建物)

3階 第3・4会議室

JBクラブは、養子(里子)を育てているお母さん(お父さん)が子ども連れで集まって、みんなで遊ぼう♪みんなで喋ろう♪という“ひろば”です。時間中であれば、いつ来ても、いつ帰ってもOK! 昼食は各自でご持参ください。当日参加OKですが、事前に、協会までご連絡いただければありがたいです。

☆(公財)大阪コミュニティ財団ふれあい基金を活用させていただきます。

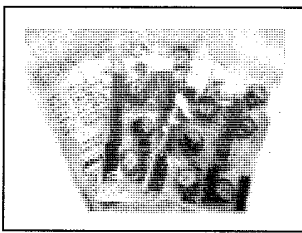
して納得させられる意見なら、思い切った採用してやるのもいいかもしれないなと思う。親に尊重され、信用されることは自尊心を育むことにもなる。そして、親が培ってきた価値観は、今の時代に適しているのかという見直しも必要だろう。「お小遣いどうする?」という話は、実は親子のあり方を考えるテーマにもなりうる。親子で徹底的に話し合ってもらえたらと思う。

(田邊)

残り福セールやっています！

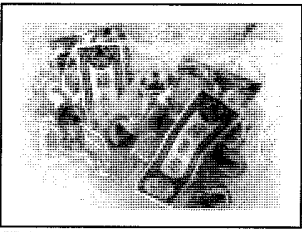
今年も恒例の今宮戎神社十日戎での福飴売りが終わった。1月9〜11日はすべて平日、しかも、全国的に強烈な寒波が襲来し、冷たい風が吹き、雨、雹まで降るといふ、極寒の3日間だった。そんな中、のべ74名の方がお手伝いください、心から感謝している。20数年、飴を売っていると、本職のテキヤさんとも顔なじみになるのだが、「今年はずつぱりやわ」とぼやいておられたくらい、人出は少なかつたようだ。それでも、昨年よりも30万円以上多く、263万9千838円の売上があつた。単価200円〜400円なので、1万個近く売っていることになる。昨年は仕入れがやや品薄だったゆえに売上も少な目ではあつたのだが、それでも、今年の日程や天候を思えば、大健闘！だと思ふ。しかし、私たちは2日目の朝から既に、商品を置かせてもらっている倉庫で、「今年はずつぱり、完売できない……と、頭を抱えていた。協会の飴売りは、長

らく地元の飴屋さんの飴をメインにしていたが、10年程前に店のご主人が病氣になり、その後、亡くなられた。息子夫婦と孫が跡を継いでいるが、祖母の時代の比べると、作れる飴の種類も量もとても少なくなり、その分を他の商品で補充しているのだが、何をどれくらい仕入れるかという「読み」はなかなか難しい。今年はその「読み」が完全に外れてしまったのだ。飴売りの翌日から、事務所内で「残り福セール」をおこない、館内の他団体や、Facebookでセールを知った方が沢山来てくださり、七福神チョコボールや煎豆は完売できた。残すは七福神キャンディ。当日は1つ300円で売っていたものを、3つで500円に割り引いて、売っている。



七福神キャンディ
3つで500円
七福神の顔と宝船のイラストが入ったキャンディです。個包装で8個入りです

そして、大量の在庫を抱えているのが、3年めのオリジナル福あめ。初年度は700袋を完売し、昨年は1400袋を完売。今年はさらに倍の2800袋を仕入れた。欲に溺れたわけではなく、袋の中に「愛の手運動」の説明カードを入れていて、広報力が高く、かつ美味しいので、主力商品を目指しているのだ(…ということにしておこう)。こちらは400円のものも2つで500円にしている。送料(厚さ2cm、1kgまではメール便で108円)をご負担いただくことになるが、通販も可能なので、メールや電話でご注文いただくと、とてもありがたい。今年の純益は、昨年より25万円マイナスの53万8千824円だったのだが、これからは売上が全て利益だ！と、職員一同、超前向きである。(山上)



オリジナル福あめ
2つで500円
えべっさんの顔(オレンジ味)5個と「福」の文字(イチゴ味)5個、個包装で10個入りです。

冬季2泊3日里親

この事業も7年目となり、今年も7名の子どもたちに出会いがあった。毎年、「また行きたい」と楽しんで帰ってくる子どももいれば、気疲れをする子ども、「お泊りはもういい」という子どもなど、その反応はさまざまである。里親側も年末年始に他人の子どもを預かるという非日常を体験し、単純に楽しかったという方もいれば、ぐったり疲れたという方、終わってからあれこれ反省する方・・・この事業に対して色々な思いを抱くようだ。

5歳のMちゃんが3泊4日で外泊をしたお家は、里父・里母・実子6歳(娘)の3人家族。基本的に実子と年齢の近い子どもをお願いすることはほとんどないのだが、実子が「誰とでも仲良くできる物怖じしない性格」であることや、Mちゃんの事情でこの冬1回限りの関わりであることもあり、お願いすることにした。

お迎えの朝、車を見て「ちっさ」と

呟いたMちゃん。後部座席で実子と並んで座り、ぼつぼつと話し始めた。子ども同士馴染むのは早く、そこからは仲良く遊んだり、いざこざしたりの繰り返し。気に入ったおもちゃは箱に入れて確保し、脱いだ靴は毎回きっちり揃える。お菓子を渡せば実子はその場ですぐに食べてしまうが、Mちゃんはまずポケットにしまい込んでいたのが印象的だったようだ。集団生活の成せる技なのかもしれないと思う。

「誰とでも仲良くできる」はずの実子も、やはり24時間一緒となると勝手が違った。3日目の朝までは「もっと遊びたい」と言っていたが、3日目は里父不在ということもあって里母の取り合いになり、「もう帰ってほしい」と漏らしていた。帰宅予定日の4日目は朝からライバルモード全開だったが、里父母揃っていたこともあり、多少のいざこざはありつつも和やかに過ごしていたようだ。

帰る段になると、Mちゃんは手当たり次第おもちゃを出したり、「まだ読ん

でいない本がある」と言っていた。なかなか車に乗ろうとしなかったが、施設に到着すると里母の抱っこからすると抜け出し、「M帰ったで」と叫びながら玄関へ。里母とタツチ、実子とはチラッと目を合わせて帰っていった。

外泊中のMちゃんはよく食べ、よく寝て、そこそこに甘え、実子とライバル状態になりながらも泣いたり笑ったり。最後は帰りたくない様子を見せるくらいには楽しんで過ごせたようでホッとした。Mちゃんが帰った後の実子はというと、若干甘えが増えたものの、「楽しかった。また来る？」と頼もしい発言。里母自身は4日間を振り返って色々と反省点もあるが、これから出会う子どもと自分たち家族が互いに無理せず関わっていくための目安になったようだ。

2泊3日里親で子どもと関わっても、関係が継続しないことはあるが、その経験を振り返って、これから出会う子どもとの関わりに繋げていってもらえたらと思う。

(藤目)



事務局だより



** 愛の手運動 **

- 取材・・・12月19日・なのはちゃん (1才8ヵ月) 12月26日・さらちゃん (4才9ヵ月)
1月9日・しょうだい君 (2才1ヵ月) 1月9日・あおい君 (5ヵ月)
- 訪問調査・・・12月20日・千葉県Y宅
- 訪問指導・・・12月16日・大阪府S宅 12月18日・堺市M宅
- 推薦面会・引き取り等・・・
12月26日・大阪府Y宅りょう君 (2627回) 引き取り 12月29日・大阪府O宅お純君 (2654回) 引き取り
12月30日・千葉県T宅みこちゃん (2637回) 引き取り

** 愛の手相談室 **

養護相談 1件

** A P C C相談室 **

12月16日 ~ 1月15日 1件

** 協会活動 **

★12月16日 養親講座3日目開催。東京都福祉保健局平見課長代理、東京都児童センター諏訪氏来訪。
★18日 元里子S母子来訪。Y宅外泊実習の様子をみるため自宅へ(中島)。★19日 養子Nの事件裁判で情状証人として出廷のため大阪地方裁判所へ(岩崎)。週末T宅カワリスのため聖母託児園へ(田邊)。T宅実習の様子をみるため愛育社へ(中島)。聖家族の家職員クリスマス会に出席(山上・中島) ★21日 大阪府連絡会、里親担当者会議へ(田邊・和田)。★22日 JBクラブクリスマス会(参加:17組39人、サタケコース:毎日新聞藤田記者、トカイ:平川記者) ★25日 ふれあい発送(ボランティア6名)。浜松市で関西芸術座「おかえり」上演の打ち合わせのため、演出の藤田氏とイベント会社AAP花枝氏と会談(岩崎)。O宅外泊実習の様子をみるため自宅へ(山上)。★26日 K宅実習の様子をみるため大阪乳児院へ(田邊)。★27日 聖母託児園堂津里親支援専門相談員が週末里親のチツを取りに来所。★28日 特別養子を中心とした養子制度の在り方に関する研究会へ(於:東京)(岩崎)。T宅実習の様子をみるため愛育社へ(中島)。★1月4日 里親制度・養子縁組の話をするため大阪医科大学附属病院の宮田リョウナスと面談(山上)。★5日 「来て、見て、聞いて教えてください里親制度」(以下「里親啓発イベント」)プログラム作成の打ち合わせのためパレード太田氏来所。★9-11日 今宮戎神社の十日戎にて福飴売り(全員)。★11日 養子Nの判決言い渡しに立ち会うため大阪地方裁判所へ(岩崎)。★12日 大阪市里親会梅原会長他3名が新年のご挨拶に来訪。島根県K養母来訪。★15日 ボランティアI氏来訪。里親啓発イベントプログラム作成の打ち合わせのためパレード太田氏来所。里親啓発イベント運営について打ち合わせのため住吉区民ホールへ(岩崎)。

** 2月の岩崎の出勤日(予定) **

主に月・火・木曜日に出勤していますが、ご用の方は事前に事務局までお問い合わせください。

家庭養護促進協会は色々な事情で親に育てられない子ども達を、毎日新聞社会部のご協力を得、毎週日曜の朝刊『あなたの愛の手を』欄で紹介し、その子の里親家庭を見つける為の、愛の手運動を53年間続けている民間の福祉団体です。日常、血の繋がりのない親子の悲喜こもごもの出来事に接し、私達の眼で見、心で感じた事を、このささやかな冊子に綴っております。引き続きお読み下さる方、この運動をより詳しくお知りになりたい方、何卒事務局までご一報下さい。

この機関紙は、NHK歳末助け合い配分金を受けて、発行しております。
府民(寄託者)のみなさま方のご協力に心より感謝いたします。

